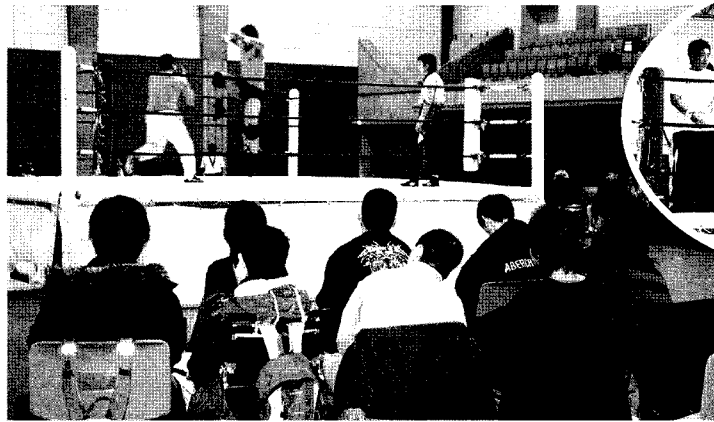


題字は駒井区社協会長

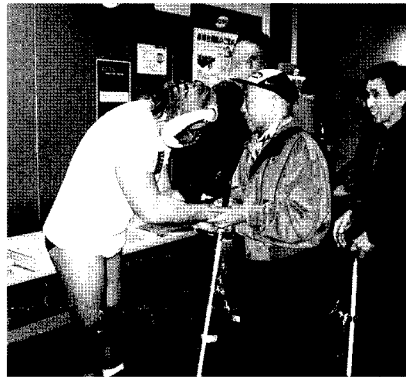


社会人や学生のレスラーたちもボランティアで参加。白熱した試合で、観戦者たちを喜ばせた

日頃は20代から60代のメンバーがそれぞれ、自分の都合のいい時間帯や曜日を調整しながら、無理なく楽しむように生活介助やバザーのお手伝いなどといった一般的なボランティア活動を行っています。

プロレスに関しては、羽曳野市で開かれていたアマチュアプロレスの大会のお手伝いをしていたが、「いつかは、自分たちの手で大会を運営したい」というのが夢でした。そして、ついにその思いが叶えられる日が来たのです。

昨年11月27日、城東区社会福祉協議会と合同で「城東区ボランティアプロレス2004～いつでも、どこでも、だれとでも～」が、門真市のなみはやドームで開かれました。障害のある方や高齢者、小さなお子さん連れなど、日頃プロレス会場に行きづらい方にこそ楽しんでもらいたいと、会場もバリアフリーになっている公的施設を利用し、競技場内にセーフティゾーンを設けるなどの工夫を行いました。そして、なにより観戦者を喜ばせたのは、試合後に観戦者を出口で見送ってくれたレスラーたち。一般の会場ではなかなか近づくこともできないレスラーの鍛えられた体を実際にさわったり、一緒に写真を撮ったりしてふれあってほしい。そんな阿部さんたちの思いからのアイデアでした。英里さんは言います。



「体の自由、不自由、老若男女に関係なく、好きなものは好きだし、行きたいところへは行きたいと思うんです。みなさんに少しでも楽しんでもらえたら」。レスラーに一生懸命カメラを向ける方たちの姿が印象的でした。

出口でレスラーに見送られる観戦者

あけまして
おめでとうござい
ます

こぶしを突き上げ、体を動かして喜んでいる姿を見るとうれしいですね

ボランティアグループE³(イースリー)

代表の阿部義則さんは、大のプロレスファン。社会人のプロレス団体が主催する大会にも足を運ぶそうです。そうしたなか、ある大会で目にしたのは、競技場のすみっこで遠慮がちに観戦していた車いすのファンでした。「障害を持った人にも遠慮なくプロレス観戦をしてもらいたい」。折しも、奥さまの英里さんが以前からボランティア活動を行っていたこともあり、改めてボランティアプロレスの企画・運営のできるグループをめざして「ボランティアグループE³」を発足したのが3年前のことです。

グループ名の「E³」は、「Everytime Everywhere Everybody」から付けられたもの。日本初のプロレスボランティアグループ(!?)とはいっても、



やさしさとぬくもりのある福祉のまちづくりを

社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会会長
駒井信義

新年あけましておめでとうございます。

平素は、当区社会福祉協議会の諸事業に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて今日、福祉は特定の人だけが受けるものではなく、子育て支援から介護まで、誰もが人生の段階に応じて利用できるものへと変わってきています。身近な地域での支えあいを、より一層推進していくことが求められるようになっていきます。

区内や校下内のニーズや特性にあった地域福祉を進めていくためには、区民の皆様や区内の全ての施設、団体、ボランティア、NPOの参画は必要不可欠であります。

現在、区社協では、区役所との協働で「大阪市地域福祉計画」と「大阪市地域福祉活動計画」を基に、区レベルのアクションプランの策定及び推進に取り組んでいます。どうか、今後ともアクションプランの基本的な考え方をご理解いただき、「一人ひとりの人権が尊重されるやさしさとぬくもりのある福祉のまちづくり」に向けて参画いただきますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年の挨拶といたします。



「やさしく力強い 新生・大阪市」の実現にむけて

城東区長 高原正典

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、ご家族ともどもお健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素は、市政・区政の各般にわたり、格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

いま、地域でさまざまな課題を抱えている人がおられ、社会福祉をとりまく情勢は、複雑多様化しています。これは、景気低迷の長期化、急激な少子・高齢社会等、錯綜した社会情勢も一因と考えられます。

このような中で、誰もが自分らしく安心して暮らしていくことができる街を、区民や行政をはじめ、地域に関わる全ての方が支え合い、力を合わせて作りあげていく「地域福祉」の推進が重要となっています。

市の「地域福祉計画」や社協の「地域福祉活動計画」を推進するために、城東区アクションプランづくりを、策定委員会のもと、区役所・区社協が協働で推し進めていきます。また、地域の課題を地域で気軽に相談し、解決に向かえる街づくりのため、地域福祉の中心的な役割を担う社会福祉協議会をはじめとする各種団体などと連携を図り、「やさしく 力強い 新生・大阪市」を目指し、全力で取り組んでまいります。今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年の挨拶といたします。

評 議 員 顧 問 監 事 理 事 (会 計) 理 事 副 会 長 会 長

- 吉野博昌 吉野博昌 行田米典 山口一子 矢野昌枝 森田忠恵 松葉常子 松井光彦 服部利彦 橋本頼昭 橋本重光 春木博至 沼野好宏 中村亮一 中村紀三 中野弘三 出野勝三 田中親正 多田正雄 高田勝雄 高島忠勝 高木信義 高井武美 駒井宗嗣 小保村潔 久保宗嗣 木村邦彦 川崎潤彦 川井一彦 小野義雄 奥野義雄 岡本須美 岡田美子 浦田榮子 岩永規二 伊東喜二 石原正美 碓氷正逸 新原正彰 高勝重典 勝田幸貢 浅田幸貢 西川幸貢 塩川幸貢 安川幸貢 森山幸貢 宮地幸貢 藤川幸貢 東海幸貢 出口幸貢 貞利幸貢 河村幸貢 奥田幸貢 梅田清郎 松田晋次 後藤正宏 吉田義弘 駒井信義

役員一同

城東区内で活動する小さなグループ、組織を紹介し、 「一歩一歩」を、ともに。

自分の人生のことは、 自分たちの手で。……しどろもどろ作業所



代表の宮崎孝人さん

1992年に障害者の自立を支援協力するグループとして発足した「しどろもどろ作業所」。その前身は文芸サークルだったという。作業所へ転身した理由について、「障害者であるメンバーも、またその家族も高齢化が進むなかで、障害者自身が自立していかないといけないと考えたんです。遊んでばかりいる場合やないですね(笑)」と代表の宮崎孝人さん。ご自身も自立し、城東区内でひとり暮らしをしている。

しどろもどろ作業所の活動目的は、障害を持つ人が一人で電車に乗ったりお店を利用したり「自立」できるよう支援することだ。例えば、介護ボランティアを自分たちの手で育てていくことと「介護講習会」を開催したり、自立生活を望むメンバーのサポートを行ったりしている。昨年よりやくひとり暮らしを始めた森川直美さんは「親の入院中に施設に入り、その時の淋しく、つらかった体験から自立を決心したんです」。今は、毎晩の夕食のおかずを何にしようかと楽しい悩みを味わっている。また、「自分の生活のことは自分で決めていきたい」と施設を出た森本悦子さんも、陶芸とプール遊びを楽しむ日々だ。職員の合田淑子さんは「先天的な障害を持っていると、つい親やまわりが面倒を見て、自分が何をしたいのかということを表示する機会が奪われがちです。自分の人生を自分で選ぶ。そして、その結果にも責任を持つことから、生活の実感というものがつかめたら」と語る。

そして障害者をはじめ、高齢者や妊婦さんなど「誰もが住みよいまちづくり」をめざして「まちづくりネットワークINなわがし」というグループにも参画。地下鉄の駅のエレベーターの取り付けやノンステップバスなどの積極的な導入を働きかけてきた。作業所の最寄り駅である地下鉄蒲生4丁目駅にエレベーターが設置されたのも、しどろもどろ作業所を中心とするネットワークの根拠ある活動の賜物だ。

障害を持つ人が社会の中で普通に生活することで、周囲の人たちにそのような姿を見てもらいたい。そして、ちょっと気に掛けてほしい。難しいことではなく、本当のバリアフリーはそうしたことから始まるのだと宮崎さんたちは信じている。



▲介護講習会での外出活動のようす
▲しどろもどろ作業所のみなさん



遊びながら“障害”を考える『しどろもどろかるた』好評発売中!

「動かないからだのかわりに口がたつ」や「るんるんるん 若い男のヘルパーさん」など、しどろもどろ作業所の皆さんで考えたユーモラスなたっぶりの手作りかるたです。楽しみながら、一緒に「障害」について考えてみませんか。定価は1000円(ケース入り)です。申込みは、しどろもどろ作業所まで。
TEL/FAX 6935-8386 sidor@linkweb.or.jp

みんなでいっしょに、脳やからだを刺激して痴ほう防止を。

～城東区の「痴ほう(介護)予防教室」の取り組み～



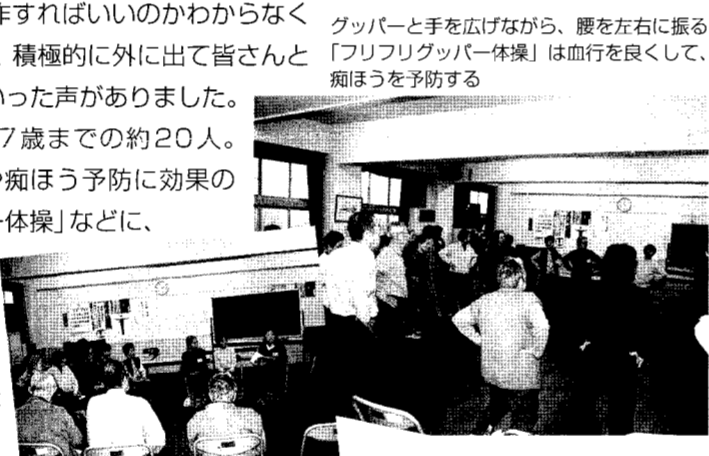
85歳になると、27%ぐらいの人が痴ほうになると言われています。言葉が出てこなくなったり、昨日何を食べたかといった記憶が出てこなくなったりと、痴ほうになると、毎日の生活にもいろいろな不都合が生じてきます。しかし、痴ほうは毎日のトレーニングで発症を遅らせたり、症状を軽くさせたりすることが可能なのです。そこで、城東区では、地域の方々やさまざまな機関の協力を得て、「痴ほう予防教室」を開催しています。現在、すでに教室をスタートさせた3つの地域の取り組みを紹介しましょう。

諏訪地区痴ほう予防教室 「しゃきっと元気クラブ」

諏訪地域の「痴ほう予防教室」は第1回の11月18日を皮切りに、3月までの5回にわたって、毎月第3木曜日に行われています。推進担当者は、今回の教室の主催者である城東地域在宅サービスステーション諏訪荘の服部直美さん。「昨年度に、町会長さんなど地域のリーダー的な方々を対象に痴ほう予防教室を行いました。その参加者の中から6人の方が、今回の教室をサポートしてくださっています。私たちの最終的な目標は、各地域の人たちによる教室の自主的な運営です。「こんないいことは、うちに帰っても、近所の人に教えてあげよう」とその輪が広がってくれることを願っています」と語られました。

教室で、その目的や「痴ほうとは」といった説明を受けた後、参加者の皆さんの自己紹介が行われました。その中で話されていた参加の動機として「ひとり暮らしになって家に閉じこもることが多いので、ボケないように参加した」とか「電子レンジを使おうとしたら、一瞬間が真っ白になって、どう操作すればいいのかわからなくなりました。ボケないように、積極的に外に出て皆さんと交流していきたい」といった声がありました。参加者は56歳から87歳までの約20人。脳を刺激するゲームや痴ほう予防に効果のある「フリフリグッパ-体操」などに、楽しそうに取り組んでおられました。

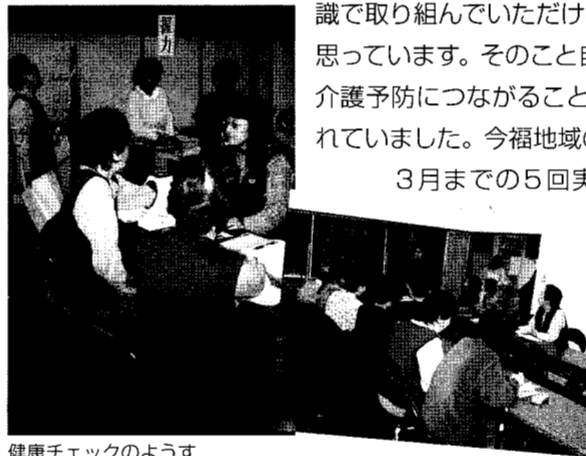
「かなひろいゲーム」に熱心に取り組む参加者のみなさん



今福介護予防教室 「あいあい」

今福地域では、今回の教室の前に10月に介護予防をテーマとした講演と体験版教室を行いました。その時に行った参加者へのアンケートから、教室の開催を決めたといえます。ネットワーク推進員の菅田圭子さんは「しかし、痴ほう予防という表現には抵抗があるようで、今、皆さんが最も関心の高い「介護予防」とあわせて実施しようと考えました。そこで城東区在宅サービスセンター(ゆゆう)にも相談してプログラムを作りました。脳の機能の訓練と体の機能の訓練を、およそ6対4で行う予定です」。

11月19日に行われた第1回目では、まず身長や体重、血圧といった身体測定や健康チェックのほか、握力や開眼片足立ち時間といった体力測定が行われました。これは参加者の年齢が58歳から81歳と幅広いため、一人ひとりにかける負荷を配慮するためです。そして、休憩をはさんで記憶力ゲームなどが行われました。菅田さんは、教室の運営について「これらのプログラムを受け身的にこなすのではなく、自分の意識で取り組んでいただければいいなと思っています。そのこと自体が痴ほう予防、介護予防につながることですから」と語られていました。今福地域の教室は月に1回、3月までの5回実施される予定です。



参加者の皆さんからは「自分だけでなく、年長した父親もいるので勉強しようと思込込だ」といった声が聞かれた

健康チェックのようす

董地域痴ほう予防勉強会

董地域では、まず痴ほう予防教室の必要性と重要性を、各老人クラブの方に理解していただくこと、老人クラブ会長会議の場をお借りして4回にわたる勉強会を開いています。1回目には「痴ほう予防とは」といった説明が行われ、2回目には「数字さがしゲーム」などの脳をトレーニングする簡単なゲームを体験していただきました。連合会長の森山義雄さんは、勉強会開催を決めた理由を「高齢社会でこの地域にもとしよりが増えています。痴ほうを予防できればと思っていたところへの申し出だったので、お願いしました」と話されています。

会議の前のわずか30分間の体験でしたが、だんだん熱も入ったようで、「それぞれの老人クラブに持ち帰ってみんなでやってみてほしい」と連合副会長の中田寿子さん。実際、1回目の説明会の後に、4つの老人クラブから教室の開催の要望があり、12月から月に1回、合同で教室を開くことになりました。その推進役を務められる連合副会長の小坂井軍三さんは「加齢とともに脳の動きはどうしても低下すると言いますが、少しでも遅らせることができるなら、ぜひ取り組みたいと思います。当日の見学も大歓迎。他の老人クラブにも広がってほしい」と話されました。

「少しボケてきたからと心配して、子どもさんがお金の管理をするようになって、とたんに痴ほうが進んだ例を多く見ました。本人の自立が一番の痴ほう防止。それを家族の方にも理解してほしい」という連合女性部長の岡本道子さんの言葉が印象的でした。

「もの忘れしない、寝込まない」生活をめざして。

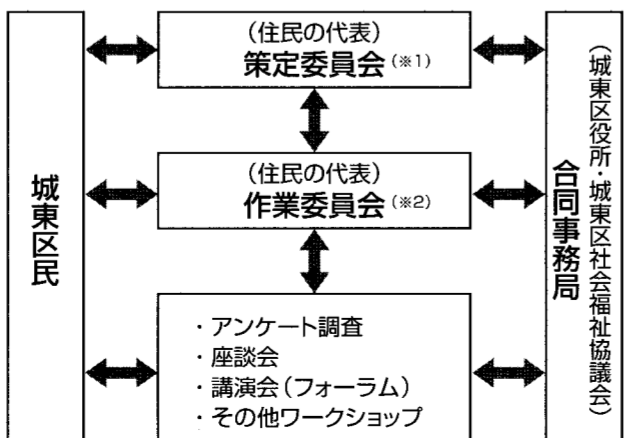
痴ほう予防のための3つのトレーニング

1. 「エピソード記憶」をきたえるゲーム
「いつ何をしたか」「誰に会ったか」などの体験を覚えている機能は「エピソード記憶」です。毎日、前日の夕食に食べたものや、前日に使ったお金を書き出す訓練をしましょう。
2. 「注意分割機能」を刺激するゲーム
洗濯しながら食事の準備をするといった、同時に2つ以上のことに注意を分散させながら持続させる能力です。物語の意味をくみ取りながら、特定の文字を拾っていく「かなひろいゲーム」などが有効です。
3. 「計画力」をきたえるプログラム
いろいろな手順を考えなければならぬ「計画力」は、痴ほうになると衰える能力です。新しい料理にチャレンジしたり、日帰り旅行の計画を立てるなど、新しいことに挑戦することが大切です。

城東区アクションプラン 策定委員会を発足します。

アクションプランとは、地域福祉の理念のもと、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現のために、区の将来像や区民主体で取り組むまちづくり活動の方向性を定める行動計画です。その大きな特徴は、区民のみなさんが主体となって、身近な視点や生活者の視点から、まちの魅力や課題を抽出することにあります。

平成17年の予定としては、区政だよりで策定委員会の公募委員の募集を行ったうえで、3月頃に策定委員会が発足する予定です。その後順次、フォーラム(区民講座)も開催する予定です。



※1)策定委員会
市民からの公募や地域のさまざまな活動主体を代表する人々で構成される委員会。地域での課題の共有化やよりよい地域づくりへの検討に基づき、各活動主体の行動内容の調整を含めた区アクションプランづくりの取りまとめを行い、計画案の策定を行う。

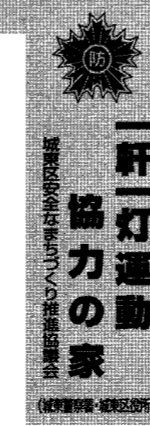
※2)作業委員会
策定委員会同様に住民の代表で組織。区アクションプランの策定に関する調査・研究・分析を行い、高齢者問題・障害者問題・子供問題・地域問題(非行・犯罪・ゴミ問題・落書きなど)の解決に向けて、計画案の作成を行う。



犯罪の温床となる暗い道をなくそうとスタートした「一軒一灯」運動

地区ぐるみで防犯に取り組む、「一軒一灯」運動

諏訪校下社協



「一軒一灯」運動に協力する家に貼られるステッカー

約108戸(関西電力調べ)。それで、車上狙いなどが防げると思ったら、安いのではないか。「住んでよかった」と思ってもらえるまちづくりをめざして、これからも地域の皆さんとともに、防犯に努めていきたいと思います。地域の皆さんを照らす一軒一灯の門灯は、住民たちの犯罪に立ち向かう強い意志の表れともいえるようだ。



毎朝、通学路に立つて子どもたちを見守る辻達男さんに贈られた子どもたちからの感謝状

